

2022 年度事業報告書

特定非営利活動法人ダイバーシティサッカー協会

I 事業期間

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

II 事業の成果

2022 年度は、前年度よりも影響は少なかったものの、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、事業計画の変更や縮小などを余儀なくされた。その中で、参加者との協働や関係団体との連携などを通じて、以下の成果をあげることができた。

1 野武士ジャパン運営サポート

東京と大阪で NPO 法人ビッグイシュー基金のサッカーチーム「野武士ジャパン」の通常練習（各月 2 回）の運営協力をを行い、計 31 回の活動にのべ 456 人が参加した。参加者は、ホームレスの当事者・経験者に加え、スタッフ、ひきこもりや不登校の経験者、ボランティアなども含む。感染防止対策を徹底した実施の上で、新規の参加者の募集を少しずつ広げていった。

オンラインでエクササイズを行うリモートワークアウトプログラムについても継続的に行い、計 10 回実施、のべ 44 人が参加した。昨年度に始めた、持ち運びできるパソコンとポケット Wi-Fi の貸し出しを継続し、上記エクササイズやミーティング、普段の練習に関するコミュニケーションに利用された。

また、後述するダイバーシティリーグや MKB カップへの参加を通じて、遠出や外部の団体との交流を通じて、チームとしての結束の高まりも見られた。

2 各地のパートナー団体との協働

宮城県内で活動をする NPO 法人まきばフリースクールが主催する「MKB カップ」の開催に協力し、また野武士ジャパン東京チームのメンバーの大会出場をサポートした。前日からレンタカーで移動し、宿泊や道中の会話を通じてこれまでとは違うコミュニケーションが生まれたほか、普段は交流のない宮城県内の困難を抱える若者などと大会を通じて交流することができ、女性が多いチームの様子なども見ることができた。また、チームは参加したリーグ及びトーナメントの結果決勝戦まで残り、PK 戦の末に勝利。高齢のメンバーも活躍するなど、定例の練習会とは異なる機会を得ることができた。

また、今年度は、代表理事がヘッドコーチを務めるラクロス男子 U21 や FIFA ワールドカップ・カタール大会が行われ、それぞれの日本代表戦や決勝戦について、野武士ジャパンのメンバーや各地のパートナー団体と観戦イベントを企画し視聴した。

そのほか、新たな居場所活動として、香川県高松市を中心に 10 代の居場所づくりや若者の就労支援を行う一般社団法人 hito.toco とサッカーを通じた交流活動の立ち上げを調整した。モデル的事業として、翌年度以降の練習会の開催やサッカー用品の提供などを検討している。

3 フットサル交流会「ダイバーシティリーグ」の開催

新型コロナウイルスの影響で休止していたダイバーシティカップに代わる活動として、3～4 チーム計 30～40 人の比較的少人数が定期的に集い交流する「ダイバーシティリーグ」を開催した。また、そのリーグ戦参加者が個人として参加し集える「個人参加型フットサル交流会」を併せて開催した。ダイバーシティリーグは東京・大阪・宮城で計 10 回行い、のべ 365 人が参加した。個人参加型フットサル交流会は東京・大阪で計 3 回行い、のべ 48 人が参加した。大阪のダイバーシティリーグおよび東京・大阪の個人参加型フットサル交流会は、「スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム」の助成を受け実施した。

大阪では過去にダイバーシティカップに参加経験のある、NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝（北芝 FC）（第 1 回、第 2 回）や滋賀ラクーンドッグス（第 5 回）、NPO 法人虹色ダイバーシティ（第 4 回）、hikimap（第 1～6 回）、野武士ジャパン大阪チーム（第 1～6 回）と、それぞれの地域や活動テーマに沿ったプログラムを実施した。具体的には、10 月には暮らしづくりネットワーク北芝がある地域の街歩きを行い、NPO としての活動や街の歴史について学んだ後、地域の小学校の体育館でフットサル交流会を実施した。また、生きづらさを抱える人が集う自助会 Break（第 3 回）や、外国にルーツのある子どもの学習支援を行う minami こども教室（第 6 回）など新たな団体とも協働して企画し、フット

サル交流会の後にボードゲームを実施したり、広いグラウンドを借りてのフットサル交流会ののちにBBQを行うなど、それぞれのニーズに応じたイベントを開催した。

東京では、NPO 法人文化学習協同ネットワークと連携し、フリースクールのコスモ高等部、野武士ジャパン東京チーム、一橋大学の学生有志の3チームが参加するダイバーシティリーグを開いた。第1回目は11月12日に一橋大学内の体育館で開催。コスモ高等部は、初めての対外試合ということもあり、少し緊張の様子も見られたが、目隠しをしてのウォーミングアップや自チーム以外の応援などのプログラムを通じて和気藹々とした交流が生まれた。終了後には、一橋大学の現役学生でもあるインターン生の案内でキャンパス内を巡るなど発展的な活動もみられた。第2回目は3月11日に、調布のフットサルコートで実施。2回目ということもあり、自団体以外の人ともチームを構成して対戦するミックステゲームを行った。

宮城では、NPO 法人まきばフリースクールが主催で、ダイバーシティサッカー協会は企画のサポートや会場の確保などの形で開催に協力した。計2回開かれ、石巻周辺で子どもや若者を支援する団体、仙台市内でホームレスの人の支援などもする教会関係者など、のべ50人が参加した。

個人参加型フットサル交流会は、東京では、12月24日に、パライーズ東陽町で開催し、17人が参加。ウォーミングアップを兼ねたアイスブレイクや、シンハラ語による特殊なルール説明で内容を予想しながらのウォーキングサッカーなど、見学者も含めて楽しめるプログラムを実施した。大阪では、12月31日にフットメッセ天下茶屋、3月25日にキャプテン翼スタジアム梅田で開催し、それぞれ14人、17人が参加した。ゲームを中心に言い、合間にはこれまでのリーグ戦や活動を振り返る場もつくり、今後の活動の参考とした。

4 ホームレス・ワールドカップ関連事業

一昨年、昨年に引き続き、2022年のホームレス・ワールドカップはコロナの影響で中止となり、代替的なオンラインイベントなどの開催もなかったため、本部が主催するオンライン会議などへの参加を通じて、コミュニケーションを継続した。具体的には、2024年度以降の選手派遣に向けて、2023年にアメリカのサクラメントで開催予定のホームレス・ワールドカップの視察の調整を行なった。

また、昨年度開催したホームレス・ワールドカップ・パリ大会を振り返るオンラインイベントについて、まとめた内容をアニュアルレポートに掲載し、広く社会に発信した。

5 調査・研究・広報

ホームページを中心に、Twitter、Facebook、InstagramなどのSNSを通じた発信を継続した。また、NPO関係者向けのイベントやWeb、ラジオなどのメディアを通じた活動の紹介も行なった。

2021年度の活動をまとめたアニュアルレポートは、インターン生の協力を得ながらライティングやデザインを進め、4000部を発行。直近の活動を報告するニュースレターとともに、寄付者や関係者に送付した。

調査・研究では、スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラムの助成を活用し、社会学者の伊藤康貴氏の協力のもと、サッカーの活動に参加するひきこもり・不登校の経験者やその関係者を対象にしたインタビュー調査を実施。計5人の参加者から、これまでの生育歴やサッカーに参加するようになったきっかけなどを聞き取り、それらをまとめる作業を行なった。調査結果や分析等は、翌年度以降に報告書などの形で発信予定。

<メディア掲載一覧>

- ・WEB マガジン「greenz.jp」 「“多様性”は考えるな、感じる！ 「ダイバーシティサッカー協会」が目指す“もうひとまわり大きな社会”づくり。」(8/26)
- ・J-WAVEのラジオ番組「JK RADIO TOKYO UNITED」 「EYES ON THE FUTURE」(11/25)

III 事業の実施状況

1 特定非営利活動に係る事業

(1) スポーツや文化・芸術活動を通じた居場所づくり応援事業

(内容)

- ・野武士ジャパン運営サポート

毎月第2、第4土曜日に東京 (@住吉公園、9:30-11:30) と大阪 (@扇町公園、18:00-20:00) で、ホームレス状態の当事者・経験者が中心のチームの通常練習の運営をサポート。

- ・オンラインプログラムと環境整備
毎月第1第3土曜日に、オンラインでのエクササイズプログラムを実施。また、昨年度より始めたパソコンと通信機器の貸し出しを継続した。
- ・ダサ Co -Sal キャラバン
単独事業としては今年度は開催せず、ダイバーシティリーグに連動して、個人参加型フットサル交流会として実施。
- ・オンライン観戦イベント
ラグロス男子 U21 日本代表戦や FIFA ワールドカップ・カタール大会の各種試合について、野武士ジャパンのメンバーや各地のパートナー団体と観戦イベントを企画し視聴した。
- ・新たな地域での居場所立ち上げサポート
香川県高松市を中心に、10代の居場所づくりや若者の就労支援を行う一般社団法人 hito. toco と、新たにサッカーを通じた交流活動の立ち上げを検討した。

(収 益) 0 円
(費 用) 199,644 円

(2) ダイバーシティサッカー大会 (国内事業)

(内容)

- ・ダイバーシティリーグの開催
定期的なフットサル交流会「ダイバーシティリーグ」を東京・大阪・宮城で計10回開催。
- ・個人参加型フットサル交流会
ダイバーシティリーグ参加者を対象に、個人参加型フットサル交流会を実施(12月24日:パライーズ東陽町、12月31日:フットメッセ天下茶屋、3月25日:キャプテン翼スタジアム梅田)
- ・NPO法人まきばフリースクール主催「MKBカップ」の開催協力及び選手派遣
大会の開催に伴う会場費等のサポートに加え、野武士ジャパン東京チームを中心とした選手の派遣をした。

(収 益) 0 円
(費 用) 816,239 円

(3) ホームレス・ワールドカップ (国際大会) など海外大会への選手派遣事業

(内容)

- ・アジア会議への出席
ホームレス・ワールドカップ・ファウンデーション主催の、アジアのパートナー団体との会議に出席し、情報交換等を行なった。
- ・ホームレス・ワールドカップの視察調整
2023年7月にアメリカのサクラメントで開催予定のホームレス・ワールドカップ視察計画を立て、本部などと調整。
- ・舞台『NO GOAL』
ホームレス・ワールドカップ日本代表チームを題材にした舞台『『NO GOAL』』の広報協力を行なった。スタッフや野武士ジャパンメンバーが舞台を観覧し、その模様をSNS等でも発信した。

(収 益) 0 円
(費 用) 0 円

(4) 調査・研究・広報事業

(内容)

- ・アニュアルレポート発行
活動報告書『2021-2022 アニュアルレポート』を4000部発行(12月15日)。寄付者や関係者に送付。
- ・イベント登壇
05/26: スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版のオンラインイベントに、理事の長谷川知広が登壇
12/15: ふくしま NPO のつどい「野武士ジャパンの事例から、ダイバーシティを学ぶ」というテーマのイベントに、理事の川上翔が登壇。

・その他

HP の運用、ニュースレターの送付、アンバサダー・協力団体との打合せ、各種メディアへの取材対応や記事執筆、SNS での情報発信などを適宜実施

(収益) 0 円

(費用) 466,712 円

IV 社員総会の開催状況

2022 年度通常総会

(日 時) 2022 年 6 月 10 日 20 時 00 分から 21 時 00 分

(場 所) 議長自宅およびオンライン開催 (Zoom を使用)

(社員総数) 13 名

(出席者数) 8 名 (うちオンライン出席 7 名)

(内 容) 第 1 号議案 2021 年度事業報告・決算案の件
審議の結果、参加社員の挙手評決により可決
第 2 号議案 2022 年度事業計画・予算案の報告
第 3 号議案 議事録署名人の選任の件

2022 年度臨時総会

(日 時) 2022 年 11 月 24 日 20 時 00 分から 21 時 00 分

(場 所) 議長自宅およびオンライン開催 (Zoom を使用)

(社員総数) 13 名

(出席者数) 10 名 (うちオンライン出席 9 名)

(内 容) 第 1 号議案 新理事・岡部茜さん就任の件
審議の結果、参加社員の挙手評決により可決
第 2 号議案 議事録署名人の選任の件

V 理事会その他の役員会の開催状況

2022 年度第 1 回理事会

(日 時) 2022 年 6 月 10 日 19 時 00 分から 19 時 59 分

(場 所) 議長自宅およびオンライン開催 (Zoom を使用)

(理事・監事総数) 理事 5 名 監事 2 名

(出席者数) 理事 4 名 監事 2 名

(内 容) 第 1 号議案 2021 年度事業報告・決算案の件
審議の結果、参加理事の挙手評決により可決
第 2 号議案 2022 年度事業計画・予算案の件
審議の結果、参加理事の挙手評決により可決
第 3 号議案 議事録署名人の選任の件